令和７年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立 大久保東 小学校 ）　　学校番号　０３２　　【様式】

学校教育目標	夢や希望をもち　新しい時代を切り拓く　心豊かに生きる子どもの育成
目指す学校像	○　児童を理解し、個別最適な指導を充実させ、「明るい子」「考える子」「たくましい子」を育む学校 ○　教職員、保護者、地域の人々が協働し、児童の誰一人取り残さない教育活動を実践する学校

重点目標	1　「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な学習を展開する授業を実践する。 2　多様な児童の実態を理解し、個別最適な指導を実践する。 3　コミュニティ・スクールとして成長し続ける学校づくりを実現する。 4　学校施設等の安全な管理及び適切な予算運用を実施する。 5　教職員の指導力向上(働きがい)及び働きやすい職場づくりを実現する。

※重点目標は５つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度			
	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

	学校自己評価								学校運営協議会による評価
	年度目標				年度評価				実施日令和８年２月１２日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策		学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1 学びの質の向上に関する取組	・R6「学びの指標」の数値は、１学期と２学期を比較してほぼ横ばいであった。 ・学校評価「授業充実」肯定的評価割合は 81%、目標値 90%には届かなかった。 ・５、６年教科担任制は浸透している。 ・自然の教室や修学旅行等の校外学習は、児童の集団行動の成長に効果的であった。 ・様々なデータや教師が認識している実態から深く分析して、学校として児童に身につけさせたい学力を明確にし、方策を実践するとよい。	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の授業実践	①児童の読解力、情報活用能力、表現力等を主とした育成を目標として校内研修を進め授業実践する。 ②カリキュラムマネジメントデザインマップを活用して、教科横断的な授業を実施すると共に、マップを適時有効なものに更新する。 ③「学びの指標」や学力状況調査のデータを基に、学力向上カウンセリングを実施する。	①学校評価「授業充実」肯定的評価が上昇する。(R6 81%→R7 85%) ・市学力調査において、読解力、話すこと・聞くことが向上する。 ②カリキュラムマネジメントが適切に実施され、デザインマップが工夫・更新される。 ③前期と後期を比較して、「学びの指標」の数値が上昇する。 ・授業実践で改善がみられる。	①学校評価「授業充実」肯定的評価が上昇した。(R6 81%→R7 88%) ・市学力調査において、読解力、話すこと・聞くことで向上はみられなかった。 ②カリキュラムマネジメントについて、余剰時間の削減、時間割の改善を行い有効であった。 ③「学びの指標」で、前期平均 3.17 から後期 3.25 と数値が上昇した。 ・若手をはじめ全体の授業スキルが向上した。	B	・読解力や表現力、情報活用能力の向上をねらいとした授業を実践する。 ・全国・市学力学習状況調査の結果を分析し、授業改善に繋げる。 ・教育ＤＸを推進し、「学び方」「教え方」の発展を促進する。 ・カリマネデザインマップを見直す。 ・校外学習をより効果的に実施できるように検証・計画を行う。 ・地域人材や資源を発掘し、活用を促進する。		・授業改善に向けた取組が進み、その肯定的な評価が結果として表れている。今後は、小・中一貫の視点にも注目し、9年間で育てていきたい力を明確にしてみてもよい。 ・授業参観で、教師が惹きつける授業をし、子どもたちが生き生きしていた。それが、数値の上昇につなっがているのでは。
2 子どもの発達や心のサポートに関する取組	・学校評価「教育相談の活用」肯定的解答の割合は約 7 割であった。保護者に対して、教育相談の活用を推進する。 ・教職員が SSSP の理解を深め、スクール・ダッシュボードの効果的な活用について研修する。 ・教師対象の教育相談に係る研修を行う。 ・外国籍児童や特別な支援を必要とする児童について、地域の関連施設等と共有し連携し、保護者や地域の理解を得ながら、「児童の誰一人取り残さない教育活動」を実現させたい。	多様な児童の実態を理解し、個別最適な指導実践	①目指す児童像の実現を目指し、特別な配慮を必要とする児童や日本語指導を必要とする児童等多様な児童の指導・支援を適切に行う。 ②児童や保護者のニーズを受け止め、児童理解を深め、他機関と連携した生徒指導・教育相談・特別支援教育体制を構築し、機動性を高める。 ③教師のスキル向上を目的とした研修を実施する。	①学校評価「目指す児童像」肯定的評価を維持する。(R6 89%→R7 93%) ②学校評価「教育相談の活用」肯定的評価が上昇した。(R6 70%→R7 80%) ・教育相談体制が構築され、目指す児童像が実現している。 ③特別な配慮を必要とする児童や、日本語指導を必要とする児童に対する指導が適切である。	①学校評価「目指す児童像」肯定的評価を維持した。(R6 89%→R7 91%) ・「明るい子・考える子・たくましい子」を教員・児童に適宜意識させた。 ②学校評価「教育相談の活用」肯定的評価がわずかに上昇した。(R6 70%→R7 74%) ・教育相談体制が主任を軸として整ってきた。 ③学校評価「特別支援教育」肯定的評価 77%。日本語指導を必要とする児童に対する指導が、担当を中心に適切であった。	B	・特別支援教育、インクルーシブ教育の充実を目指し、教員に対する研修を行う。 ・特別支援教育コーディネーターや教育相談主任を主とするケース会議や児童理解研修を行う。 ・生徒指導主任を主として、いじめ防止、重大化防止の研修を行う。 ・外国をルーツにもつ児童や保護者に対して、全教員が適切に対応できるように研修を行う。 ・保護者、関係者、外部機関との連携を深める。		・目指す児童像の具現化に向け、児童一人ひとりを大切にした教育が行われていると感じる。一方、「教育相談の活用」がより積極的に図れるよう、課題を検証してほしい。 ・他の地域と比較して多国籍化が進んでいること、特別な配慮を要する児童が増えている。その対応に教職員にかかる負担が大きくなっている現状があり、改善できるとよい。
3 地域とともにある学校づくりに関する取組	・地域人材の活用について、徐々に以前の形を取り戻している。さらに、地域人材や資源を発掘し、活用を促進する。 ・学校運営協議会、SSN が有効に働いており、児童の安全、周年行事に効果を上げた。学校運営協議会では、多方面の方と意見交換ができ、地域全体で子どもたちを見守り、育てていることを感じた。 ・学校評価「地域行事参加」73%、「地域人材の活用」48%の肯定的解答の割合であった。	コミュニティ・スクールとして成長し続ける学校づくり	①SSN や PTA を活用し、家庭や地域の状況を把握すると共に、配慮児童の支援等のサポート体制を構築する。 ②学校ＨＰやメール、アプリ等を活用し、学校の取組や緊急連絡、協力の要請を積極的に発信する。 ③管理職は地域行事、ＰＴＡ行事に参加し、学校への理解を求め、協働体制を築く。	①コミュニティ・スクールやＳＳＮを活用し、学級や児童のサポート体制が構築できる。 ②学校評価「情報発信・処理」肯定的評価を維持する。(R6 87%→R7 90%) ③学校評価「家庭地域と連携」肯定的評価が上昇する。(R6 72%→R7 80%)	①安全ボランティア、環境ボランティア、図書ボランティア等の取組は大変充実している。 ②学校評価「情報処理」肯定的評価を維持した。(R6 87%→R7 94%) ・情報発信のデジタル化により、保護者が処理しやすくなった。 ③学校評価「家庭地域と連携」肯定的評価を維持した。(R6 72%→R7 74%)	A	・児童の学校運営協議会等への参画を通じて、子どもたちの意見や思いが受け入れられ尊重されることを実感し、主体的に活動する自信と責任感を育成する。 ・ＰＴＡ等と連携し、地域の行事を家庭に周知し、地域と家庭をつなぐ役割をする。 ・安全ボランティア等への協力を継続して呼びかけ、さらに関係を強化する。		・子どもたちの声を直接聞くことで、学校運営協議会の活性化も図れるので、児童の参画を積極的に進めてほしい。 ・ボランティア活動が充実していることは素晴らしいので、継続できるよう努めてほしい。 ・地域関係機関との連携が図られ、地域に根差した学校になっている。
4 教育環境の整備に関する取組	・学校評価「学習環境」肯定的解答の割合は 86%であった。不要備品の処理、樹木剪定を計画的に行っている。 ・不要備品の処理や教材用具の改善を進め、学習環境の充実を図る。 ・教材費等の口座引き落とし振り込み化を実行し、検証・改善する。 ・植物や図書に関して、ボランティアの貢献が大きい。協力体制を維持することが大事である。	学校施設等の安全な管理及び適切な予算運用	①施設設備の安全点検と要修繕箇所の対応を迅速且つ計画的に行う。 ②学校予算の適正な管理と計画的運用を行う。 ③備品の台帳登録を確認すると共に、不要備品等を処理する。 ④教材費等の学校徴収金の集金方法を改善し、安全で効率的に管理運用されているか点検する。	①② ・学校評価「施設、予算」肯定的評価を維持する。(R6 95%→R7 97%) ・校舎内外が、学習環境として安全に整備される。 ③計画的に備品が整理される。 ④教材費等の徴収金が適切に管理・運用される。	①安全点検を適切に実施し速やかに修繕するようにした。学校評価「施設管理」肯定的評価平均 89%。 ②学校予算は、事務担当と連携し適切に運用した。学校評価「予算管理運用」肯定的評価 90%。 ③備品台帳の整理は適切に行い、不要の備品は適切に処理できている。 ④教材費等は金融機関を活用して事故なく管理・運用できている。学校評価「保護者金銭支払い」肯定的評価 99%。	B	・老朽化が進む施設・設備の点検を教育委員会と共に適切に行い、教育活動が安全に停滞することなく実施できるようにする。雨漏り等大規模な改修が必要な箇所もある。 ・環境ボランティアと協議・連携し、子ども主体で、花壇等の整備を進める。 ・教材費等の口座引き落とし振り込み化について検証し、適宜改善する。 ・引き続き備品の台帳登録を確認すると共に整理する。		・教材費の集金方法の改善が順調に進んでいるのはよかった。 ・施設の老朽化に伴う改善を市にお願いしたい。 ・花壇の手入れや植栽等、いつも手が行き届いており、来校者の目を引く。
5 教職員のキャリア形成に関する取組	・学校評価「学校課題研究推進」肯定的解答の割 68%であった。 ・学校評価「自己研修・成果」肯定的解答の割合は 61%であった。 ・学校評価「業務改善」肯定的解答の割合は約７割であった。 ・学校評価「勤務姿勢」肯定的解答の割合は約８割であった。 ・教師に対して、研修や授業研究会への受講・参加を継続して推奨し、指導力向上につなげるようにする。	教職員の指導力向上(働きがい)及び働きやすい職場づくり	①教員に研修会や他校の授業研究会へ参加を奨励する。 ②「学びの指標」等を活用して授業改善を行うよう指導する。 ③教職員事故防止に係る研修会を年 3 回開催する。 ④企画委員会等で、学年主任や分掌主任のマネジメントによる業務改善を促進するよう指導する。 ⑤情報端末やアプリを活用して、職員間の連絡体制を迅速かつ的確に行うようにする。	①学校評価「自己研修成果」肯定的評価が上昇する。(R6 61%→R7 70%) ②前期と後期を比較して、「学びの指標」の数値が上昇する。 ③体罰や暴言、事故を防ぐことができる。 ④⑤ 学校評価「業務改善」肯定的評価が上昇する。(R6 71%→R7 75%) ・職務に厳しく、職場は和やかな勤務環境にある。	①他校の授業研究会に教員を積極的に参加するようにした。学校評価「自己研修成果」肯定的回答 67%。 ②「学びの指標」のデータから、教員のスキルが向上している。 ③今年度、教職員に関して、不適切な指導・暴言、事故等は起こしていない。学校評価「教職員勤務姿勢」肯定的回答 90%。 ④学校評価「業務改善」肯定的回答 77%。 ⑤日常的に、適切、効果的に活用している。個人情報の管理について指導・徹底した。	B	・教職員の資質能力の育成をねらいとした学校組織の組閣・運営を行う。 ・教師に対して、研修や授業研究会への受講・参加を継続して推奨し、指導力向上につなげるようにする。 ・中堅キャリア教職員の使命感に働きかけ、主体性を向上させ、教育活動の推進者として行動できるようにする。 ・教育ＤＸを推進し、「教え方」「働き方」の発展を促進する。 ・職員の事故防止を励行し、職務に厳しく、職場は和やかにする。		・先生方も日々多忙の中だと思うが、積極的に自己研鑽に努め、指導力の向上に努めてほしい。 ・若手の教師が子どもたちと真摯に向き合う姿があった。教職員の資質向上、スキルアップの取組の成果ではないか。 ・ICT 活用、保護者対応等々、学校は様々な課題を抱え、目まぐるしく取り組んでいる中、教職員には体調に気を付けてほしい。